

はじめに

管理職の
視点から

ふくしま教育創造コンソーシアムポスターセッション資料

只見町立只見中学校

教員がまずは研修

先進地区（宮城県気仙沼市、宮城教育大学など）への研修

ESD・SDGsを柱として、つないでいく

ESD・海洋教育とは？

町予算を確保して、研修に参加する環境を整える
牛タン食べませんか？

先生方の意識の変化「只見中学校でも取り組んでいる！」

新聞紙によるレジ袋作成のきっかけ



上越フィッシングセンターでのゴミ拾い・魚釣り活動

生徒の体験活動への助言、外部講師の招聘

生徒の気づき
…地球温暖化の影響で水没してしまう可能性がある国がある。
…海の自然を守りたい、海洋ゴミを減らしたい。



生徒が気づく・考える・行動するためには？



先生方のしかけ
…フラゴミの削減のために、有効活用できるものは？

先生方のしかけ
…キリバス代表理事ケンタロ・オノさんによる講話
…フナ林への自然探索

生徒の気づき
…只見の山から、海をきれいにしたい！

先生方の
しかけ

生徒の気づき



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



プラスチックのゴミが多いなあ!

自分たちができることを
考えてみよう!



なぜ、海外のゴミが
新潟の海に漂着しているの?

きれいな海を取り戻すには、
どうすればいい?

ゴミを減らそう!
地球温暖化防止も!



写真は、令和元年7月10日に総合的な学習の時間で訪れた新潟県上越市の港に漂着していたゴミを拾っている様子です。

この日に行われたゴミ拾いと魚釣りから大きなヒントを得て、
只見中学校のESD・海洋教育がスタートしていきました。

いろいろなことがつながり、新聞紙を使ったレジ袋の作成やウニの飼育が只見中学校におけるESD・海洋教育の大きな取組となっています。

取組の様子は、学校のホームページにも詳しく掲載されています。
(http://kir523528.kir.jp/?page_id=44)



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



自然体験学習で
恵まれた自然に感謝し・・・



日本有数の豪雪地帯！
この雪は・・・只見川から
海まで流れているんだね



只見町は日本有数の豪雪地帯であり、厳しくも豊かな自然と、それに基づく文化によりユネスコエコパークに認定されています。**町内の小中学校はユネスコスクールとして認定され、地域の持続的な発展を踏まえたESD教育を学校教育の柱にしてきました。**そこにグローバルな視点を持つ子供を育てていくため、海洋教育の視点を付加した現在の取組へと発展させています。

只見中の教育目標は「考える生徒」です。**グローバルな視点を持ち、課題の解決のために熟議してアイデアを出し合い、地域のことを考えローカルのために実践する生徒は頼もしく、まさにESD教育の目指すところです。**

只見町内の小中学校そして只見高等学校を加えた5校はESD教育をもとに連携し、「グローバル・リーダー」の育成に取り組んでいます。



Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



電子黒板を活用した授業
(3年生数学 習熟度別授業)

ipadを活用した授業
(2年生 理科)

教員によるICT講習会



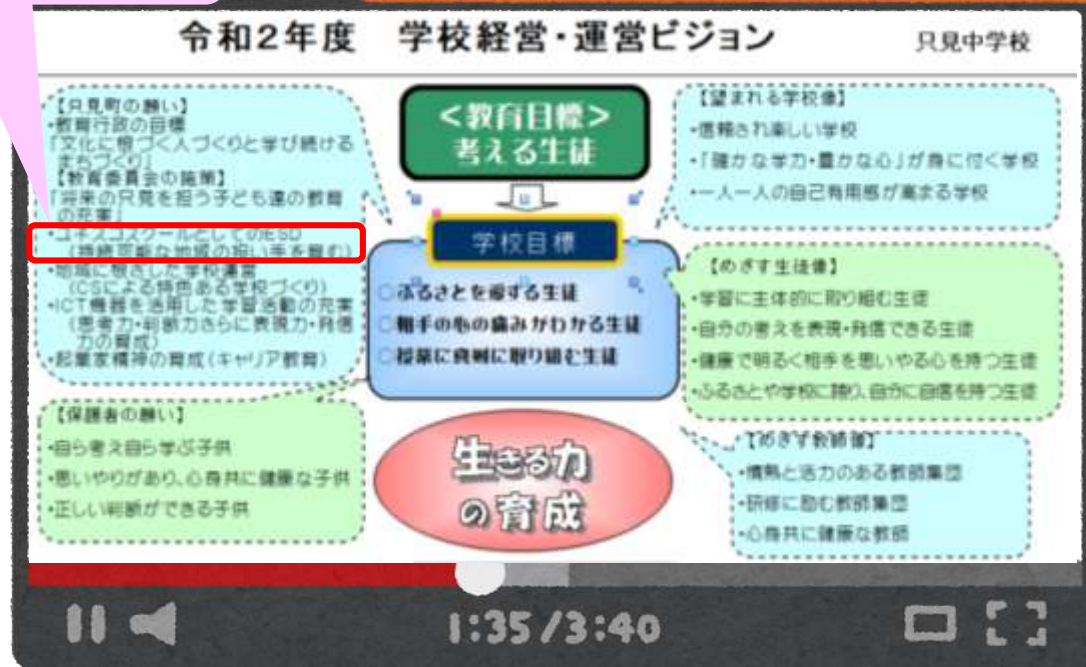
只見町立只見中学校について
現在、全校生徒は96名(1年生28名、2年生41名、3年生27名)。
特色ある学校づくりに取り組むため、以下の4点に力を入れている。

- ①ESD(海洋教育)・SDGsの推進
- ②個に応じた指導の充実・・・数学・英語によるTT・習熟度別授業の実施。ICT機器(ipad等)を生かした授業実践
- ③望ましい生活習慣・学習習慣の確立・・・生活スケジュール、学習スケジュールの立案・実施による自己マネジメント力の育成
- ④只見中スタンダードの創設・・・家庭におけるSNSの使い方や時間などを生徒主体となって考えていく。

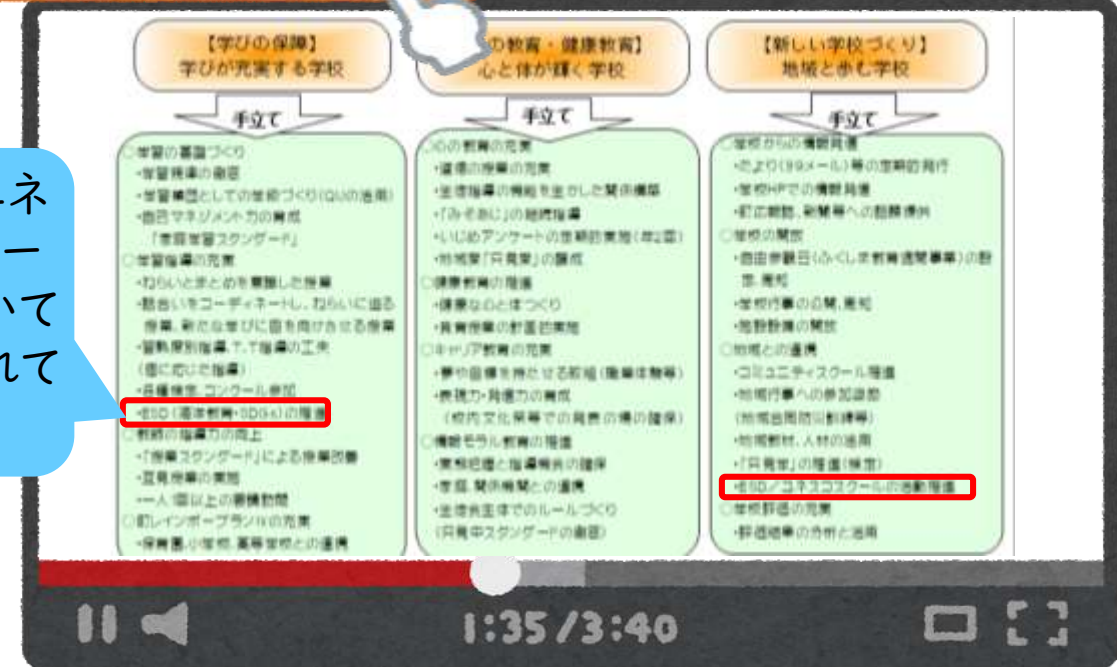


ユネスコスクール
としてのESD

Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



ESD・ユネ
スコスク
ールにつ
いて明記
されて
います



職員間で意識していること

①組織として「そろえる」「つなぐ」「まわす」 3つのお〇〇様 「おかげ様」「お世話様」「お互い様」

②学校経営・運営ビジョンより

「願いを受け止め・願いを込めて」 虫の目 鳥の目 魚の目

目的・ねらいがあってこそその教育活動・・・行事の計画には、必ず目的を明記

③事故防止に万全を期す(最悪を想定した危機管理に努める)

生徒事故の防止 「命」「心」の安心・安全は最優先

学校事故の防止と教職員「不祥事」の防止

発信力を高める取組



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



清掃開始前の整列
の様子(3年生)



生徒会を中心とした
あいさつ運動

「みそあじ」の継続指導

み・・・身だしなみを整える(みんな完璧な身だしなみ)

そ・・・掃除(率先してやる掃除)

あ・・・あいさつ(あたりまえにできるあいさつ)

じ・・・時間を守る(自覚ある時間厳守)



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



海外のゴミも日本に
漂着している！



海からだけでなく
川からも流れてきて
いるんだよね。

もしかして・・・新潟に
は只見からのゴミも・・・



1:35 / 3:40



1:35 / 3:40



私たちの住む只見に降る雪、そしてとけて流れる川の水は、豊かな自然を支える命の水として海へつながっています。その視点をもとに、新潟県上越市の海岸でゴミ拾いを行い、実態調査を行いました。大量のゴミが海岸に漂着していることが分かり、ゴミを減らすためにはどうしたらいいかを考えるきっかけとなりました。海外のゴミも多く漂着していることが分かり、ゴミの問題は、**日本だけではなく、世界的な問題であるということが分かりました。**特に、プラスチックごみを減らしたいという気持ちが高まりました。



Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



地球温暖化が
及ぼす影響とは？



持続可能な17の目標
「SDGs」について学
習しました



1:35 / 3:40

令和元年11月、日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏を招き、全校生対象のESD・海洋教育を行いました。キリバスの温暖化の現状を知って、大きな衝撃を受けました。**地球温暖化についても改めて知り、身近なところから何ができるかを考えるきっかけ**をいただきました。

ブナセンター、ブナ林の見学を通し、自然の素晴らしさを改めて感じるとともに、「SDGs」の各目標についての学習も進めました。2年生は、**「SDGs」の目標をもとに、自分ができる取組を宣言**し、校長室前と教室に掲示しました。



カリキュラム・マネジメントの視点で、音楽科での「SDGs」の歌

- 全員の同意を得た上の曲ができた。
- 班のみんなで楽しく作ることができて良かった。
- 良くできたのでよかった。
- みんなで協力してできたので良かった。
- もっといろいろな発展できたらいいなと思った。

- みんなで協力して作れたのでよかった。
- 楽譜の作りかたがよかった。
- 楽譜を見て楽しかった。
- 様々な楽器を使った。楽譜が面白いように時間がかかった。
- 追加したことは、リズムを工夫しました。苦労したことは、みんなの意見が合わないところがあったこと、楽しくできたことは、みんなで作れたこと。
- 今、温暖化を止めるために二酸化炭素を減らすということを歌詞にしました。
- イズムも覚えやすいようにしました。

生徒のアイデアから、音楽科の授業でSDGsの歌を作りました。森林伐採やプラスチックごみの削減、二酸化炭素の排出量を削減して地球の温暖化をストップするなどのメッセージが込められています。



Think Globally, Act Locally!

～海洋教育の視点を付加したESDの取組～

考えたことを行動に移してきました。

17 パートナシップで目標を達成しよう

只見中学校の2年生が
海洋プラスチック削減のため
新聞紙でレジ袋を提供しています

プラスチックごみを減らしたいという思いからはじまったのが、新聞紙によるレジ袋作成です。2年生が中心で作成を進め、ポスターも掲示しました。「SDGs」の17の目標も意識して取り組んでいます。ある程度の重さに耐えることができるよう日々改良を加えています。



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



地域の商店へ
電話連絡し相談
の事前交渉をして
います。



商店の店主へ新聞レジ袋
の取組を紹介し協力を依頼
しています。



地元の薬局に新聞
紙レジ袋を納品



只見町内で新聞紙によるレジ袋を利用してほしいと考え、宣伝活動を行いました。只見町内のコンビニエンスストアに電話でアポイントを取り、実際に店主に現物を紹介し、活用を依頼しました。中学生の熱い思いと行動力に対して、**地域の大人達が真剣に向き合ってくれています**。地域と学校が一体となって環境問題に取り組んでいます。

作成した新聞紙によるレジ袋を、地元の薬局に届けました。薬局では、積極的に新聞紙によるレジ袋を利用いただき、地域の方からも大変好評です。部活動が行われない放課後や昼休みに、新聞紙によるレジ袋作成を行っています。



Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



全校生によるレジ袋制作

新聞社、テレビ局の取材の様子



メディアの取材が増えました。新聞紙によるレジ袋作成の様子については、地元の新聞社やテレビ局で大きく報道されました。インタビューに答える生徒の姿は堂々としていました。この取組に対し、小泉進次郎環境大臣からのコメントの報道もありました。

現在、米袋を利用したお酒を入れる袋づくりを、ミシンを使って慎重に制作しています。学級の話し合いから、レジ袋にメッセージを入れるなど、様々なアイデアがでています。

今後は、町民の方へ新聞紙レジ袋作成教室を開催し、町全体での取組に発展させたいと考えています。

今年度、新聞紙によるレジ袋作成は、全校生で行っています。3年生は後輩につくり方を積極的に教えるなど、全校体制で作成を行っています。依頼があればすぐに納品ができるよう、生徒が中心になり行っています。

8 働きがいも
経済成長も



11 住み続けられる
まちづくりを





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



実際に流れたニュース映像です。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



海洋教育に取り組む只見中

キリバスの現状理解

温暖化の深刻と学ぶ

山村から世界に視野を広げる「海洋教育」 日、地球温暖化の影響



オノさん(右)の話を聞く児童生徒ら

が深刻な太平洋の島国キリバスについての講演会が開かれた。生徒は温暖化の現状や自分たちができる対策を学んだ。

日本出身でキリバス国籍を取得した、日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさんが講師を務めた。キリバスの島の多くが標高二メートルほど、海面上昇や海岸侵食など温暖化が原因とみられる現象が起きていることを説明した。

さらにオノさんは日本の猛暑や巨大台風来襲を例に挙げ、「日本もひとごとではない。このまま温暖化が進めば、只見のフナ林もなくなってしまうかもしれない」と指摘。「温暖化は人災。人間が解決するしかない」と語り、過剰な食糧生産のための森林伐採、プラスチックごみの大量排出などに警鐘をならした。

只見中の全校生約百人や只見小六年生、地域住民が参加した。生徒から「温暖化を抑える活動をしたい」などの感想が聞かれた。

令和元年11月8日 福島民報より

只見中2年生

新聞紙で買い物袋

プラスチック製のレジ袋の使用を減らそうと、只見町の只見中2年生は新聞紙で買い物袋を作り、地元の商店に販売している。海と遠く離れた山あいの町から、海洋ごみ削減を実践している。



同校は世界に視野を広げる「海洋教育」に取り組んでおり、2年生は新潟県の海岸でプラスチックごみを回収するなど海洋問題に理解を深めてきた。自分たちでできることを模索し、レジ袋削減のため、インターネット

地元商店に販売

海洋ごみ削減を実践

上で作り方を紹介していた新聞紙の紙袋に着目した。紙袋は新聞紙一枚を折って、のりで貼り合わせ、持ち手の部分も新聞紙を丸めて取りつける。重量五キロまで荷物が入るといふ。2年生二十七人が袋本体作り係や持ち手作り係、検品係などに分かれて作った。

生徒自ら、町内のヤマザキショップ松屋を訪れ、新聞紙製の袋を使ってもらうよう要請。一枚五円で購入してくれることになり、二月に五十枚納品した。同店の吉津年浩さん(右)は「子どもたちが作ったので、皆さん喜んで持って行く」と、追加発注した。

四日からの休校により、追加の紙袋製作は先送りとなったが、活動を通して、2年生の酒井伶斗さんは「プラスチックごみを減らす呼び掛けをしたい」と意欲を見せる。横山泰久校長は「生徒の取り組みにより、大人の意識が変わればうれしい」と話す。

令和2年3月9日 福島民報より



Think Globally, Act Locally!

～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



只見から海洋ごみ削減

只見町の只見中3年生が、プラスチックごみを減らそうと新聞紙で「紙レジ袋」を製作した。生徒たちは、海から離れた山間部の只見から海洋ごみ削減に挑戦している。

プラスチック危機

只見中は環境問題など世界に視野を広げるため海洋教育に力を入れており、昨年7月には、新潟県の海岸でごみ拾い活動を行うなど

中学生が新聞紙レジ袋

して生徒らが海洋問題に理解を深めた。現地でプラスチックごみの多さに驚いた生徒たちは自分たちでできることを話し合い、紙レジ袋の製作を決めた。

紙レジ袋は、縦横に折った新聞紙を巧みに丸めた新聞紙の持ち手部分をのり

「環境保護 勉強していく」

新聞紙を活用し製作した「紙レジ袋」

で接合。3年生27人が本体制作係、検品係などに分かれて完成させた。海洋教育広報係の鈴木健志さん(14)と菊地新大さん(14)は19日、只見町のあいあい薬局只見店を訪れ、紙レジ袋を使ってもらおうと交渉し、約100個を譲ってもらった。同店からはお礼として同様に次亜塩素酸水が贈られた。

同店担当者からは「薬を入れる袋が収まるよう深さがほしい」と要望があり、2人は改善することや約束。下級生を指導して紙レジ袋を増産していく考えという。2人は「今回の活動でレジ袋の購入費も抑えられる。環境保護に向けて勉強していか」と意気込みを語る。担当教諭の目黒英樹さん(50)は「町内外で自発的にごみを拾うようになり、環境への意識が身に付いた」と、子どもたちの成長に目を細めた。

新聞紙レジ袋贈る

海洋ごみの削減などに向けてプラスチック製レジ袋の使用を減らそうと、只見町の只見中の3年生は十九日、自ら新聞紙で作った「紙レジ袋」を町内のあいあい薬局只見店に寄贈した。

三年生二十七人が、感染防止による臨時休校新型コロナウイルス感 期間中の時間を活用するなどして製作した。

寄贈式は、あいあい薬局只見店で行われた。生徒を代表して広報係の鈴木健志さんと菊地新大さんが同店を訪れ、紙レジ袋計百袋を手渡した。店側から同校にお礼として次亜塩素酸水が贈られた。担当教諭の目黒英樹教諭と一緒に訪れた。

町内の小中学校は山村から世界に視野を広げる「海洋教育」に取り組んでいる。二月に東京大で催された全国海洋教育サミットでは、只見中が優秀賞を受けている。

紙レジ袋を寄贈する鈴木さん(右手前)、菊地さん(右奥)

令和2年5月23日 福島民報より

令和2年5月21日 福島民友より



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



手紙



くんにはは。
5/21付の新聞を見ました。
とても感動しました。この感動を只見中、三年生に伝
えたく、ペンを執りました。
地球の環境を守るために、自分達に何かできるかを考
え、ゴミの削減という目的から、新聞紙でレジ袋を
制作した生徒さんと先生方の取り組みとても
すばらしいと思います。



Think Globally, Act Locally!

～海洋教育の視点を付加したESDの取組～

令和2年5月23日 福島民友より



環境省の調査で、海岸に漂着したごみの人工物に占めるプラスチックごみの割合が、いわき市小名浜で90%に上った。小名浜を含む国内10地点で60%を超え、日本海側の松江市では97%に達した。問題の深刻さを実感させるデータだ

▼ごみの大半はペットボトルや漁網。ペットボトルをラベル別に分類すると、中国語や韓国語などの外国語表記の割合が日本語表記より多い海岸もある。海流に乗って流れ着いたとみられる

▼只見町の只見中の3年生がプラスチックごみ削減を目指し、新聞紙で「レジ袋」を作り、町内で配布する活動を始めた。世界に視野を広げるための学習で、海洋ごみの問題を学んだ生徒が早速行動に移した

▼きょうは「世界亀の日」。カメの生存と繁栄のための行動を奨励する日という。プラスチックごみはウミガメなどの海洋生物に影響を与えている。海から遠く離れた山間部にある只見中の活動はまさに模範的といえる

▼タイの人製リゾート地の砂浜で、絶滅の危機にある世界最大級のウミガメ「オサガメ」の産卵が過去20年で最多の11カ所で確認された。コロナ禍で観光客が激減し、ごみも減ったことが原因という。まずは毎日のごみを減らすことから始めたい。

2020・5・23



福岡市・
（ホーンテイク 82）
 海の環境汚染を改善する
 環境省の「海にサビロウ
 イー」が八月まで行わ
 れた。

海のゴミを深刻な影響
 が懸念されるのは、フラス
 スナックであった。フラス
 ナックのゴミは、海に漂
 々なるゴミを主な原因が考
 えていた。ゴミをのみ
 まるた魚や鳥などの体
 内に蓄積し、生態系に影
 響を及ぼす。

食品を介して人体内
 にも取り込まれ、健康に影
 響を及ぼす恐れがある。

また、既に、日本人の排
 せつ物からフラスナック
 が検出されたという報告
 もある。人間の健康を守
 るためにも、海のゴミを
 減らすのは喫緊の問題な
 らず。

問題の解決には、人々
 の意識改革が必要だと認
 められる。口見中は、環境
 問題でも世界に視野を広
 げるため、海洋教育に力
 を入れているという。昨
 年七月には新開島の海岸
 でゴミ拾い活動を行うな
 ど、生徒らが海洋問題に
 理解を深めた。現場を見
 てゴミの多さに驚き、自
 分たちでできることを話
 し合った。

生徒が新聞紙で買い物
 袋を作って商店街に販売
 したり、紙コップを持っ
 て公園に寄付したりして
 いる。社会科や環境科
 を担当し、意識改革の大
 切さを口説いた、良い例
 だ。

令和2年6月13日 福島民報より

令和2年6月14日 福島民友より

論 説 レジ袋有料化

七月一日からプラスチック製レジ袋の有料化が義務付けられる。只見町では海洋汚染について学んだ中学生の発案で新聞紙を利用して手提げ袋を作り、町内の店舗でレジ袋として使ってもらう取り組みが始まっている。新聞紙レジ袋を普及させ、自然環境保護の輪を広げたい。

プラスチックは軽くて便利な素材だが、リサイクルされない限り分解されず、ごみとして自然界にたまっていく。環境省が公表している資料によると、世界で年間八百万トン以上のプラスチックごみが海に流出している。

只見町の只見中では、山村から世界に視野を広げる「海洋教育」を昨年度から実施し

ている。昨夏、現在の三年生が実際に海を訪れ、プラスチックごみ問題の深刻さを肌で感じた。自分たちができることを考え、新聞紙レシ袋を考案した。作り方はインターネットの情報を参考にした。当初は三年生二十七人が担当していたが、受注が増え、

只見中モデ

今は全校挙げて取り組んでいる。総合学習の時間や昼休みなどを活用している。材料は学校で購読している新聞を使っているため、以前のように廃棄しなくてもよくなった。新聞紙の再利用にもつながっている。

一方、福島市の就労継続支

只見中モデル広めよう

援施設「ワークショップ」などでは、英字新聞を使って作製し、「エコバッグ」として販売している。エコバッグとは、エコロジー（環境活動）などから生まれた呼び方で、店舗側が提供するレジ袋に代わり、買い物客が持参するマイバッグと同じ意味で使われる

ル広めよう

エコが多い。

「ふん」のエコバッグは、二本松市の道の駅安達で販売している。元々、イベント参加者のプレゼントだったのが、受け取った人の要望を受け商品化した。新聞紙は吸水性があり、野菜の保存袋にも適している。「使い勝手がい

二贈りの物入れに喜ばれる」と人気を集めている。

新聞紙は再利用に適した素材だ。読み終えた新聞がレジ袋、エコバッグとして活用されれば、プラスチック製レジ袋を含めたごみの削減につながることもできる。

有料化されても、プラスチック製レジ袋を使う人が減らなければ意味がない。学校、企業、各種団体が新聞紙でレジ袋を作り、コンビニやスーパーなど小売店が採用する。只見町のような流れを模倣する地域が増えてほしい。

自然環境を守るという共通の思いから運動が生まれる。

「只見中の生徒がまた種を、県民みんなで大きく育てていきたい。」

（三神 尚子）

令和2年6月18日 福島民報より





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年6月23日 FTV取材の様子



令和2年6月30日
FCT取材の様子



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



小泉環境相も注目 只見中の紙レジ袋



段ボール製の間仕切りを使って要請を受ける小泉環境相。只見中の生徒が新聞紙で作った「紙レジ袋」(手前)も発信している＝29日午後、環境省

小泉進次郎環境相は、只見町の只見中3年生が新聞紙で作った「紙レジ袋」を環境に配慮した優れた取り組みとして高く評価している。7月1日からはプラスチックごみの削減対策としてレジ袋の有料化が始まることから、大臣室を訪れる人たちに積極的に情報発信している。

小泉氏は、福島民友の報道などを通じて「紙レジ袋」の存在を知り、大臣室に取り寄せた。29日に要請で大臣室を訪れた双葉地方町村会、同町村議会議員会の役員らにも披露し「地域を挙げて取り組んでいる。(優良事例として)PRしています」と笑顔で語った。

また小泉氏は要請書を受け取った後、段ボール製の間仕切りを手に取り「マスクを外せるので、打ち合わせで使っている。軽くて持ち運びも楽」と語った。須賀川市の神田産業が手掛けたもので、こちらも小泉氏の「お気に入り」という。

令和2年6月30日 福島民友より



令和2年7月1日 福島民報より



令和2年7月1日
TUF取材の様子



Think Globally, Act Locally!

～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



只見中新聞紙レジ袋

取材メモ

全国でプラスチック製のレジ袋の有料化が始まって二週間が経過した。只見町の只見中の生徒はプラスチック製のレジ袋の使用を減らすべく新聞紙で作った「新聞紙レジ袋」を作り、町内の薬局などに寄贈するなど活動を図っている。活動の現状や今後の展開などを聞いた。

（聞き手 福島県・丹治 陸）

■高まる需要
時間などを活用し新聞紙レジ袋を作っている。学校の取り組みは、新聞紙を使ってレジ袋を作る三年生の生徒の姿があった。

同校では海と遠く離れた山あいの町から海洋教育を推進し、全国的に注目を集めている。生徒の取り組みを支援している同校の目黒英樹教諭に

星休みの時間を活用し新聞紙レジ袋作りに励む生徒＝14日、只見中

好評、「増産」へ工夫

「メディアで紹介されてから関心が高まっている。町内外からも新聞紙レジ袋を取り扱いたい」という声が出てきた」と話

一週間に製作できる数は六十〜七十袋程度。高まる需要に対して供給が追いつかないのが現状だ。

■数日間ゼロに
南会津町のセブンイレブン会津田島新町店は、約六割のレジ袋が有料化に不満を訴える人は約六割を占めているという。小嶋さんは「有料化に不満を訴える人は一人もいない。それだけ環境への意識が高まっている」ということではないかと語る。

同校で製作した新聞紙レジ袋は町内の薬局やコンビニエンスストアなどに寄贈している。目黒教諭によると、強度などの課題も多い。こうした課題を乗り越えられれば、全国的に広がる取り組みになる。かとうかの鍵とな

■広がる取り組み
同校では新聞紙レジ袋の増産を促すため、夏休みに公民館で、生徒が新聞紙レジ袋の作り方を町内の小学生や高齢者に教える教室の開催を予定している。



令和2年7月16日 福島民報より

令和2年7月17日
海と日本inふくしま



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～





内堀知事に紙レジ袋などの取組みを報告する只見中3年生

紙レジ袋づくり報告

只見中3年生が知事表敬

只見町の只見中3年生は6日、県庁を訪れ、新聞紙や米袋を再利用した環境に優しい「紙レジ袋」の取組みを内堀雅雄知事に報告した。

同校は環境問題など世界的な課題に視野を広げようと、海洋教育に力を入れて

いる。昨年7月に新潟県の海岸で実施したごみ拾い活動で、海外から流れ着いたごみの多さに驚いた生徒が自分たちでできることを話し合い、紙レジ袋づくりを始めた。袋は現在町内7店舗で利用されている。

訪れたのは、山田夢空さん、鈴木莉子さん、印南蒼羽さんの3人。「現状を多くの人に知ってもらい、取組みを町や県に広げたい」「地元の米焼酎製造・販売『ねっか』にも使ってもらい、ねっかの知名度で取組みを世界に広げたい」などと内堀知事に語った。

内堀知事は「小泉進次郎環境相に紹介されて取組みを知った。子どもや孫の世代に良い環境を引き継ぐため輪を広げてほしい」と激励した。

令和2年8月7日 福島民友より

新たに米袋でレジ袋

只見中生、知事にお披露目

今月末 町内の店舗に届ける



左から横山校長、鈴木さん、内堀知事、印南さん、山田さん、目黒教諭

プラスチック製レジ袋の使用を減らそうと、新聞紙を使った買い物袋「新聞紙レジ袋」を作っている只見町の只見中の生徒は、紙製米袋を使ったレジ袋を新たに作成した。町内の三店舗で使ってもら

う予定で、夏休み明けの今月末に各店舗に届ける。六日、代表生徒らが県庁を訪れ、内堀雅雄知事にお披露目した。

米袋のレジ袋はミシンを使って両端や上部を補強した。新聞紙レジ袋よりも強度が高い。町内店舗からの依頼を受けて作成した。

県庁には山田夢空（ゆら）さん、印南蒼羽（あおは）さん、鈴木莉子（りし）さんが訪れた。米袋を使ったレジ袋や新聞紙レジ袋を示し、活動の経緯を紹介した。八日から十日まで、只見町内で住民向けに新聞紙レジ袋の作り方を教える教室を開くという。

山田さんは「活動への思いを伝えられてうれしい」、印南さんは「自分たちの活動が広がって驚いている」、鈴木さんは「プラスチックごみの分別などももっと学習したい」と話した。

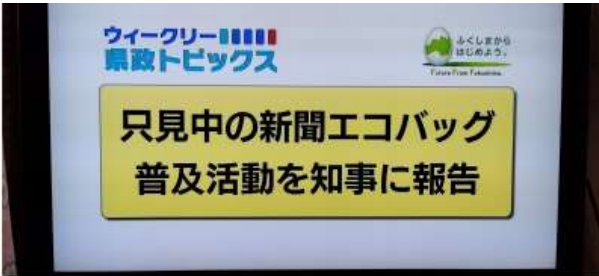
内堀知事は「環境を考えている気持ちが真つすぐ伝わった。皆さんの取組みを只見町から広く伝えてほしい」とエールを送った。

横山泰久校長、目黒英樹教諭が一緒に訪れた。

令和2年8月7日 福島民報より



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年8月8日 KFBウィークリー県政トピックスより

令和2年8月8日 学校ホームページより
(朝日地区新聞紙によるレジ袋教室)



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年8月9日 学校ホームページより
(朝日地区新聞紙によるレジ袋教室)



令和2年8月10日 学校ホームページより
(明和地区新聞紙によるレジ袋教室)



Think Globally, Act Locally!

～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



紙レジ袋作り方広める
只見中生「環境問題考えて」

只見中（只見町）は8日、新聞紙などで作った「紙レジ袋」の作り方を体験する教室を町内で開き、参加者に環境保護の重要性を呼び掛けた。

同校は世界的な課題に目を向けようと海洋教育に力を入れている。昨年7月に

行った新潟県の海岸でのごみ拾い活動の経験から、生徒が話し合い、紙レジ袋作りの取り組みが始まった。現在、薬局や商店など町内7店舗で使用されているという。

1年生3人が講師を務め、製作工程を解説した。

参加した同町の鈴木小枝子さん（63）は「子どもたちや先生の行動力と実行力が素晴らしい。環境問題を考える良い機会になった」と話した。

製作工程を説明した増田可さんは「プラスチックごみの削減など環境問題について多くの人が考えてほしい。取り組みを続け広めていきたい」と話した。



令和2年8月20日
只見中学校ホームページより

令和2年8月11日 福島民報より



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年8月11日
只見中学校ホームページより

令和2年8月28日
只見中学校ホームページより



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



新聞キホン
「レジ袋」としても活用
読み終えた新聞を生
活に生かし、環境保護
にも役立てる取組が
注目されています。
七月からプラスチック
製レジ袋の有料化が
義務付けられたのを受
け、新聞紙で作った手
り、地元の店に使用
されています。
吸湿性をはじめ新聞
紙の特長を生かした生
活の知恵は昔から知ら
れています。水を含ま
ない新聞紙は、野菜を包
み、冷蔵庫に入れてお
くと長持ちします。ぬ
れた靴の中に入れて新
聞紙を入れると、乾き
が早くなります。新聞
を使った遊びや工作も
たくさんあります。

しんぶんて学ぼう



令和2年11月12日
只見中学校ホームページより

令和2年8月26日 福島民報より

令和2年8月26日
只見中学校ホームページより



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年7月20日・31日
只見中学校ホームページより

令和2年7月29日のBSフジのテレビ番組に
出演した小泉環境大臣



令和2年7月31日
只見中学校ホームページより



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



3地区の新聞レシ袋作り教室では、只見中学校ESDのシンボルで小泉大臣も付けている木製の手書き「SDG'sパッチ」を参加記念品にしています。



令和2年8月8日
只見中学校ホームページより(レジ袋作成教室の様子)



令和2年10月28日
只見中学校
ホームページより





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年10月29日
只見中学校ホームページより





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年1月1日
福島民報より

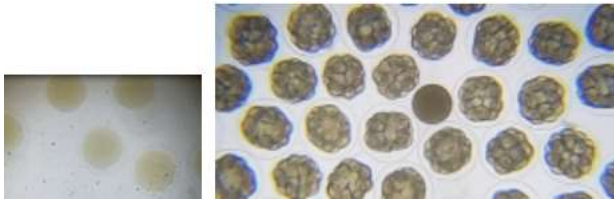
バフンウニの飼育についても、地元の新聞社の取材を受けました。

成長する様子は只見中ホームページ海洋教育「ウニの部屋」に更新中です。

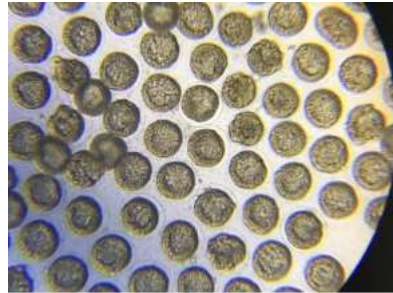




Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和元年12月5日



令和元年12月6日



令和元年12月9日



令和元年12月12日



令和元年12月23日



令和2年1月7日



令和2年1月21日



令和2年2月12日



令和2年3月4日



令和2年5月9日



令和2年6月16日



令和2年7月8日



令和2年8月18日



令和2年9月28日



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年9月28日
只見中学校ホームページより
ウニとの最後のふれあい



令和2年9月29日
只見中学校ホームページより
修学旅行に同行するウニ

令和2年10月1日
只見中学校ホームページより
ウニとの別れ
(アクアマリンの指導の下)





Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



1:35 / 3:40



1:35 / 3:40



4 質の高い教育を
みんなに



令和2年2月15日、**東京大学で全国海洋教育サミット**が行われ、只見町の取組を東京大学安田講堂で発表しました。

只見中学校は優秀賞を受賞しました。この会には只見町内の小学校も参加しました。只見町の取組が、そして只見中の取組が、全国に認められました。



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



令和2年2月28日 福島民報より



令和2年9月16日 只見中学校ホームページより



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



優秀2作品、県代表に
国際理解・協力へ中学生作文

「国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテスト」の県大会の優秀作品に、海老原和奏さん（西袋3年）と山田夢空さん（只見3年）の作品が選ばれた。

海老原和奏さん
山田夢空さん

県が23日、発表した。海老原さんは「世界平和の実現に向けて、私ができること」、山田さんは「SDGsが目指す『誰も取り残さない』社会を作るために、自分は何ができるか」をテーマに出品した。県大会には78点の応募があった。海老原さんと山田さんの作品は、外務省と日本国際連合協会が主催する本選に県代表として出品される。本選の入賞作品発表は10月24日の予定。

令和2年9月24日 福島民友より

国際理解・協力全国中学作文
山田さん（只見）佳作
第六十回国際理解・国際協力のための全国中学生作文コンテストで、県代表として推薦

された只見中三年の山田夢空（ゆら）さん（只見町）の作品「SDGsが目指す『誰も取り残さない』社会を作るために、自分には何ができるか」が佳作に選ばれた。県が二十六日、発表した。

コンテストは外務省、日本国際連合協会の主催。全国から千二百四十二点の応募があり、山田さんの作品を含め十八点が入賞した。

令和2年10月27日 福島民報より



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結(ゆい)を強くする 只見中学校 山本愛佳

中学生の思いと行動

きれいな海を守りたい！！

海洋プラゴミを上流から減らす

自分たちでは限界がある

新聞紙でレジ袋を作成して使ってもらう

只見にいなが海を守る活動をする

テレビやラジオでも海ゴミを減らすことを訴える

中学生が先生

町の人の思いと行動

コロナで元気を失った町をなんとかしたい！！

町内のコンビニが新聞紙レジ袋を採用

中学生を応援したい

町内の調剤薬局でも新聞紙レジ袋を採用

町主催で新聞紙レジ袋教室開催

参加者が新聞紙レジ袋を作って中学校に寄付

17番の原点は「結」

海洋ゴミを減らす中学生 町が元気を取り戻す



令和2年11月2日
只見中学校ホームページより

2020年(令和2年)11月7日(土曜日) 第1回 ユネスコ道・東北ブロック大会

ユネスコ道・東北大会 ポスター発表

只見中が最優秀賞

「新聞紙レジ袋」紹介

第二回ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会は二日、開催され、児童生徒が発表するポスター発表部門で、只見中の「新聞紙レジ袋作り」が、この取り組みが素晴らしいと高く評価され、最優秀賞に輝いた。

文部科学省、鳥取県教育大学の主催。新型コロナウイルスの影響で、従来の大会が中止となり、オンラインで開催された。只見中は、代表の山本愛佳(三年)が、世界と只見を結ぶ中学生の活動が町の結(ゆい)を強くする「新聞紙レジ袋」を町内に配布して、町の結(ゆい)を強くする取り組みを紹介した。同校の山本愛佳(三年)が、最優秀賞に輝いた。

只見中が最優秀賞に輝いた。ポスター発表部門では、八校、数々の賞状を受賞した。只見中が最優秀賞に輝いたのは、五校が出場した。このうち、只見中のポスター発表は、最優秀賞に輝いた。

の賞状が、大会で対面とオンライン配信の両方を活用した。ハイブリッド型で開催された。ポスター発表部門には、八校、数々の賞状を受賞した。只見中が最優秀賞に輝いたのは、五校が出場した。このうち、只見中のポスター発表は、最優秀賞に輝いた。

令和2年11月7日 福島民報より

令和2年11月1日
ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会



Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



予測困難な時代…今だからこそ
世界の中の日本を見つめ、君たちの「声」を発信！

国際化が進む中で日本人はどうあるべきか、
これからの国際交流はどうあるべきか、
広い視野からの論文を持っています！

100年前、たったひとりで立ち向かった
福島県出身の「サムライ」がいた…

世界的歴史学者・日本人初のイエール大学教授
「国際協調と世界平和こそが人類の永遠のテーマである。」
戦争を防ぐために民間人として活躍
生涯にわたり祖国日本を見つめ、信念を貫いた真の国際人
ダートマス大学時代のあだ名は
「Samurai」 (サムライ)

福島県出身・世界的歴史学者
あさかわかんいち
朝河貫一 博士

朝河貫一賞にも応募

昨年度の英語弁論大会でも、創作の部で
ESDについて発表

ふくしまエコライフ
絵はがきコンテスト
出品作品





Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



	班 員（敬称略）	発表内容・達成目標
1	○舟木悠真 渡部悠行 新國蒼空	No. 5 ジェンダー平等を実現しよう No. 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
2	○菅野陽翔 目黒咲翔 渡部有希人	No. 3 すべての人に健康と福祉を No. 10 人や国の不平等をなくそう
3	○堀金康太 目黒悠斗 目黒琳太郎	No. 1 貧困をなくそう No. 16 平和と公正をすべての人に
4	○横山晃汰 菊地祐成 湯田来喜 馬場 悠	No. 6 安全な水とトイレを世界中に No. 8 働きがいも経済成長も
5	○河原田茜音 梁取ななこ 浅野 琳 佐藤来夢	No. 9 産業と技術革新の基礎をつくろう No. 10 人や国の不平等をなくそう
6	○小沼和葉 吉津滯里 長谷部千夏	No. 6 安全な水とトイレを世界中に No. 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
7	○三瓶咲季 葉谷 花 目黒きらり 佐藤未徠 川原田月渚	No. 13 気候変動に具体的な対策を No. 15 陸の豊かさを守ろう
8	○三瓶なつめ 松永佳音 目黒真秀 飯塚 妃	No. 2 飢餓をゼロに No. 12 つくる責任 つかう責任
9	○梁取瑠奈 五十嵐葵 橋川彩希	No. 11 住み続けられるまちづくりを No. 13 気候変動に具体的な対策を
10	○五十嵐零生 齋藤椿 鈴木音緒 山内ひかり	No. 11 住み続けられるまちづくりを No. 15 陸の豊かさも守ろう
11	○新國 響 酒井 駿 岩佐乃杏 渡部美空	No. 4 質の高い教育をみんなに No. 17 パートナーシップで目標を達成しよう
12	総合係（三瓶咲季、佐藤未徠、 目黒きらり、渡部悠行、五十嵐葵	SDGsの背景、No14 海の豊かさを守ろう（及び新潟海洋教育学習関連） 総括（ESD教育の今後の活動および持続可能な只見町の姿について）

～目標4「質の高い教育をみんなに」～

未来をつくる教育

日本では、小学校・中学校の9年間が義務教育。すべての子どもたちが教育を受ける権利を持っています。しかし、世界には学校に通えない子どもたちが約1.2億人もいます。

※1小学校に入学する歳になっても学校に通っていない子どもたちの約半分は、地域の争いごとや戦争のある場所に暮らしています。

4 質の高い教育を
みんなに



小学校に通えない子どもの数

6,300万人

中学校に通えない子どもの数

6,100万人



日本は、教科書も国から支給されています。これは決して当たり前の事ではないことに感謝したいです。国、町からの教育の支えがあるからこそ立派な社会人への基礎作りができるのかと思います。

わたしたちにできること

教育は、わたしたちの未来のためにとても大切です。今の時代、学校の教室で学ぶだけでなく、インターネットにアクセスすることで、さまざまな世界や知識にふれることができます。このようなインターネットの環境がそろっているかどうか、教育を受ける機会の差を生み、教育の格差がさらに広がることについても考えていかなければいけません。

一方、自分たちがふだん、学んでいる日本の学校でできることには何があるでしょうか？例えば、学校の中だけでなく家庭や地域などの社会と協力して学ぶ機会を増やすことも、そのひとつです。SDGsを実現するためのさまざまなアイデアが見つかるかもしれません。

次回は目標5「ジェンダー平等を実現しよう」です。



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



地球のステージ



森林環境教室



Think Globally, Act Locally! ～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



ESD・海洋教育の実践について、各種メディアで放送・掲載されたものです。

令和2年11月7日 福島民報「ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会」最優秀賞
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jodbv6thj-87#_87

令和2年10月27日 福島民報「国際理解・協力」作文 全国で佳作
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jolrqbvmm-87#_87

令和2年9月24日 福島民報「国際理解・協力」作文 県で優秀作品
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo270q78k-87#_87

令和2年8月26日 福島民報「しんぶんて学ぼう」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jom8y3933-87#_87

令和2年8月11日 ラジオ福島「Radio de show (ラジオでしよう)」放送
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jodbu5ms0-87#_87

令和2年8月11日 福島民報「紙レジ袋作り方広める」掲載
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo9vg9nm-87#_87

令和2年8月9日 福島県のホームページに掲載されました
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joj1p3ph3-87#_87

令和2年8月8日 知事訪問についての福島放送 (KFB)「ウィークリー県政トピック」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jos8nkxf4-87#_87

令和2年8月7日 知事訪問についてのNHK総合のニュース
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jom3ixttk-87#_87

令和2年8月7日 知事訪問についての新聞掲載 (福島民友、福島民報)
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joqzehiti-87#_87

令和2年7月31日 ESDの取組が県教育委員会のホームページで紹介されました
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jooeopq0u-87#_87

令和2年7月27日 福島中央テレビ『海と日本project in ふくしま』の動画配信
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo07qipa-87#_87

令和2年7月16日 福島民報「取材メモ：今後の取組等」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo52ggyk-87#_87

令和2年7月2日 テレビユー福島のニュース「中学生新聞紙で買い物袋」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jom886irh-87#_87

令和2年7月1日 福島民報「小泉大臣が素晴らしいと」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo4p9a2xs-87#_87

令和2年6月30日 福島中央テレビのニュース「新聞レジ袋の取組」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joctcrgr0-87#_87

令和2年6月30日 福島民報「環境大臣が目玉」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joliax7pm-87#_87

令和2年6月23日 福島テレビのニュース「新聞レジ袋の取組」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo9ch7b4q-87#_87

令和2年6月18日 福島民報「論説」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joq1nhz1m-87#_87

令和2年6月14日 福島民報「ジュニア情報局」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joqbtogx-87#_87

令和2年6月13日 福島民報「みんなのひろば」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joynzw4z-87#_87

令和2年5月23日 福島民報「編集日記」・福島民報「新聞紙レジ袋」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo0qwxvn-87#_87

令和2年5月21日 福島民報「只見から海洋ゴミ削減」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joq7509l-87#_87

令和2年3月9日 福島民報「新聞紙で買い物袋」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=josmkgqlf-87#_87

令和2年2月28日 福島民報「全国海洋サミット 優秀賞」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo09y5wxg-87#_87

令和2年1月1日 福島民報「山あいウ二飼育」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=jo080wg0-87#_87

令和元年11月8日 福島民報「温暖化を学ぶ (キリバス講演会)」
http://kir523528.kir.jp/index.php?key=joxfhjoc-87#_87



Think Globally, Act Locally!
～海洋教育の視点を付加したESDの取組～



山から海を守る
只見中学校

